

患者さんへ

「乳房用自動超音波画像診断装置（ABUS）施行不可症例を施行前に判断する

項目の検討」について

はじめに

大阪ブレストクリニック学園前では、下記患者さんを対象に観察研究を実施しております。内容については下記のとおりとなっております。

尚、この研究についてご質問等ございましたら、最後に記載しております[問い合わせ窓口]までご連絡ください。

1. 研究概要および利用目的

対策型検診に超音波を追加する受診者が増え、当院では ABUS と Hand-held US (HHUS) の選択が可能です。ABUS を希望する患者さんに対してはまず MMG 実施しその後 ABUS を施行しています。ABUS はプローブを圧着するため痛みを訴え施行出来ない場合や、やせ型、胸郭異常の患者さんは機械が密着せず、検査を試みても良好な画像が得られない場合があります。密着不良が想定される患者さんを MMG 撮影時に判別できればそのまま HHUS に変更でき検者、患者さんの手間や時間の軽減が可能となります。MMG 画像から ABUS 施行前に密着不良を想定する項目を検討します。

2. 研究期間

2019年1月から2019年10月、当院にて ABUS 実施した 594 名の患者さん

3. 検討項目

患者さんの MMG 画像から得られる乳房の圧迫厚により ABUS の実施の可否を予測できるかなどを検討します。

4. 個人情報保護の方法

大阪ブレストクリニック個人情報取扱い規則に則り適切に行います。（当院 HP『個人情報について』を参照ください。）個人情報、検査結果などの記録、保管は第三者が直接患者さんを識別できないよう登録時に定めた登録番号を用いて行います。

5. 研究へのデータ提供による利益・不利益

利益・・・本研究にデータをご提供いただいた患者さん個人には特に利益と考えられることはございませんが、本研究結果が今後の乳癌診療の向上に有用となる可能性があります。

不利益・・・カルテからのデータ収集のみであるため、特にありません。

6. 研究終了後のデータの取り扱いについて

患者さんよりご提供いただきました資料・情報は、研究期間中は大阪ブレストクリニック学園前において厳重に保管いたします。ご提供いただいた資料・情報が今後の医学の発展に伴って、他の病気の診断や治療に新たな重要な情報をもたらす可能性があり、将来そのような目的（研究）に使用することがあるため、研究終了後も引き続き大阪ブレストクリニックで厳重に保管させていただ

きます。(保管期間は最長で10年間です。)

ただし、患者さんが本研究に関するデータ使用の取り止めに申出された場合には、申出の時点で本研究に関わる情報は復元不可能な状態で破棄いたします。

なお、保存させていただいたデータを用いて新たな研究を実施する際には、その研究について、医学倫理委員会で再度、審査を受けることとなっております。

7. 研究成果の公表について

研究成果が学術目的のために論文や学会で公表されることがありますが、その場合も、患者さんの個人情報の秘密は厳重に守られますので、第三者に患者さんの個人情報が明らかになることはありません。

8. 研究へのデータ使用の取り止めについて

いつでも可能です。取りやめを希望されたからといって、何ら不利益を受けることはありませんので、データを本研究に用いられたくない場合には、下記[問い合わせ窓口]までご連絡ください。取り止めの希望を受けた場合、それ以降、患者さんのデータを本研究に用いることはありません。しかしながら、すでに研究成果が論文などで公表されていた場合のように、結果を廃棄できない場合もあります。

9. 研究機関

この研究は以下の研究機関と責任者のもとで実施いたします。

代表研究機関(主任研究者)

責任医師：野村孝

分担技師：山本絹子、藤井直子

10. 資料・情報等の保存・管理責任者

この研究の資料や情報を保存・管理する責任者は以下のとおりです。

大阪ブレストクリニック学園前

責任者：野村孝、山本絹子、藤井直子

11. 問い合わせ窓口

この研究についてのご質問だけでなく、ご自身のデータが本研究に用いられているかどうかをお知りになりたい場合や、ご自身のデータの使用を望まれない場合など、この研究プロジェクトに関することは、どうぞ下記の窓口までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

大阪ブレストクリニック学園前

臨床検査技師 山本絹子 連絡先：0742-93-4108